

留学先国名 : アメリカ合衆国

留学先学校名 : ウィノナ州立大学

留学期間 : 平成 25 年 8 月 13 日 ~ 平成 29 年 5 月 10 日

三回生の春学期に経験したこと、得たこと、そしてそれを踏まえてこれから留学する人へのアドバイスを報告致します。

1. 留学中の経験から得たこと

三回生の春学期は、副専攻している女性・ジェンダー・セクシャリティ学の授業を中心に取りました。アメリカ内での差別や権力の差など入門クラスとはいえ、多くの社会問題の共通点や原因を深く追求し学ぶことができました。無知といっても過言ではないほど今までこの分野に触れたことがなかった私は、専門用語を含め何もかもが一からのスタートでした。例えば、女性・ジェンダー・セクシャリティ学が日本よりも進んでいるアメリカでは多種多様なセクシュアリティを表す単語 LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー）に加え、近年では LGBTQIA+（レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、クィア、インターセクシャル、アセクシャル、その他様々）という単語もよく使われています。フェミニストからの視点では人種差別、性的差別、階級差別、能力差別などを個々に問題視するのではなく、それぞれの交差し合っている原因や共通点を考慮した上で改善に向けた対策を見つけるため、客観的に多様な角度から考え理解するクリティカル・シンキングのスキルアップすることができました。4 月には 4W Summit/40th Wisconsin Women's and Gender Studies Conference という女性・ジェンダー学の会議に参加し、研究者やプレゼンターの直接の経験を聞くことができ、ジェンダー学について理解を深め、更にはネットワークを広げることもできました。来年の会議で自分の研究を発表することが今後の目標の一つです。

そして、今学期も課外活動にも力を入れ、3 月末には去年から所属している大学の Model United Nations Club（模擬国連部）で、毎年ニューヨークで開かれる国連模擬世界大会に参加しました。まず参加が確定するまでに、三ヶ月間募金活動を通して部員全員で会議に参加する費用（ホテル代や交通費）を集めたり、担当国や委員会の課題をリサーチしたり、ポジションペーパーを書いたり、会議当日までの様々な準備が一番の困難でした。約一週間の会議では、6 千人もの世界中の大学生と国際問題について担当国の大使としてそれぞれの立場から議論や交渉を行い、外交の複雑さなどを体験でき、パブリックスピーキングなどのスキルを向上することができました。最終日には国際連合本部ビルで閉会式が行われ、会場の緊張感や偉大さを味わえる貴重な機会でした。来年もニューヨークの全国大会に加え、シカゴで開かれる American Model United Nations にも参加する事がクラブとしての目標です。

2. アドバイス

アドバイスは数え切れないほどありますが、まずはやはり普段の授業で良い成績を取る、あるいは取る努力をすることが一番大切だと思います。課外活動やボランティア活動、バイトもちろん勉強になるし学べることがたくさんありますが、それは本来しなければいけない事を終えてから初めてできることであって、結局は普段やることをきちんとしていなければ、機会の幅も狭まるのではないのかなと個人的に私は思います。例えば、大学でよくある全国優等生協会（National Honor Society）やキャンパス内でのいくつかの職位は、応募条件として一定以上のGPAをもとめられることが多々あり、成績が基準となって判断されることが多いです。今学期、こうして私が色々な会議に行けるチャンスを掴めたのも、普段からの地道な努力を見てくれていた教授から声をかけていただいたおかげでもあります。なので、私からの一つ目のアドバイスは、まず普段からの授業に真面目に取り組み、できるだけ良い成績を残すということです。

そして、ある程度の成績が取れて余裕があれば、課外活動やバイトにも取り組んでみることはすごく良い経験にもなり、履歴書などにも書いて有利です。そのため、二つ目のアドバイスは、興味のあることにひたすら挑戦し、経験を積むことです。上級生になるにつれ、キャリアフォーラムなどへの意識も高まり、「経験」というのがすごく重要になってきます。たくさんの学生がいる中で「自分にしか無いもの」、「自信を持ってアピールできること」を見つけてそれをさらに磨きあげるとはすごく難しいことであって、これは誰にとってもチャレンジなのではないのかなと思います。正直、私は「自分にしか無いもの」をまだ見つけできていません。そのため、これはこれから留学する人へのアドバイスでもあり、残り一年の大学生活での自分自身への課題でもあります。